

健 たか なび

第47回

心臓の動きが早いと感じたり、脈が飛んでいると感じたり、不規則に感じたりする状態を動悸といいます。たとえば全速力で走った後や不安な時、緊張した時に心臓の動きを自覚するのは生理的なもので、動悸のほとんどは心配のないものです。しかし、心不全や脳梗塞につながる危険な動悸もあります。

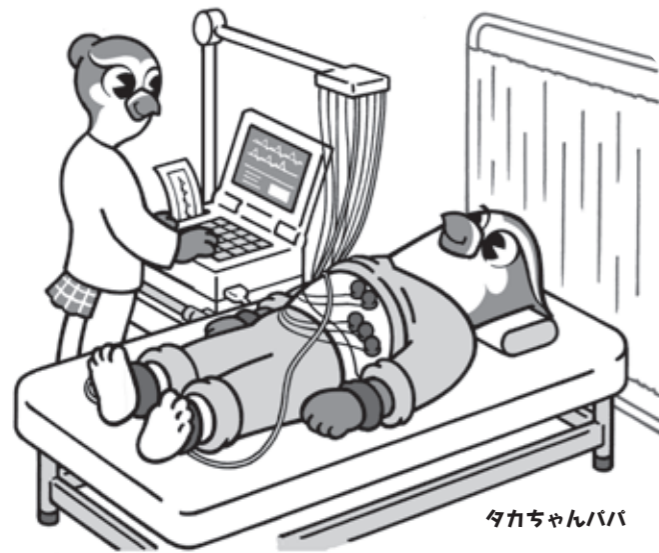
その代表が心房細動です。心房細動とは、心臓の動きが早く不規則になる不整脈で、脈をとってみるとリズムや強さ弱さもばらばらの状態になっています。

心房細動が起こると心臓の中の血流がわるくなり、血の塊(血栓)ができやすくなります。血栓が脳の血管に詰まると脳梗塞を引き起こすこともあるため、心房細動は大変危険な病気です。特に、75歳以上の高齢者、高血圧、糖尿病がある方は、脳梗塞を起こす危険が高いことが知られています。さらに治療せずに長い間放置していると、心臓の筋肉が傷み心不全を起こす場合があります。

脳梗塞を起こす危険が高い方は、血液を固まりにくくする作用がある薬によって脳梗塞の発症を予防することが可能です。また、心房細動を予防するために、心臓のリズムを正常に保つ抗不整脈薬などの薬物療法やカテーテルによる治療も行われています。

心房細動は、動悸が強い場合はめまいやふらつきを伴い、時には意識を失うこともあり気づかれやすいのですが、無症状の人も多いため症状がないからといって安心はできません。心房細動は、加齢とともに発症頻度が高くなります。特に40歳以上になったら、定期的に心電図の検査を受けましょう。必要があれば専門医の診断を受けることも大切です。

危険な心房細動の 早期発見には、 定期的な心電図検査を



監修

慶應義塾大学循環器内科准教授

佐野 元昭

高田製薬株式会社

〒336-8666 埼玉県さいたま市南区沼影1丁目11-1

高田製薬は、患者さんや医療関係者の声に耳を傾け、医療ニーズに合った医薬品の開発と情報提供で、健康な社会づくりに貢献します。